

諸の目

向こう三軒両隣の近頃、賃貸住宅の需要が伸びている。だが、近年は「無縁社会」とはNHKでは家族、あると、

会社との縁が切れている。高齢者、若者が、この社会で生きていくには、

2013年
1・7
No. 1059
毎週月曜日発行

週刊

全国賃貸住宅新聞

発行所 全国賃貸住宅新聞社 東京都中央区銀座8-12-15 [支局]大阪 http://zenchin.com
TEL 03(3543)6494(代表)・03(3543)6761(編集部) 発行人 榎本ゆかり (毎週月曜日発行) 年間購読料17,000円

時代を読む

被災地で誕生した低コストコンテナ賃貸住宅

短期施工で1戸27㎡約300万円

東日本大震災から丸2年を迎えようとしている。だが、いまだ復興事業は進んでいない。進まない理由の一つに復興事業者が滞在する宿泊施設がないことが指摘されている。その問題を解消するものとして期待されているのが、コンテナ式賃貸住宅建設だ。短期施工が可能で、コンテナ式賃貸住宅は、被災地に限らず、全国でも注目されている。今回は仙台の老舗管理会社今野不動産の今野幸輝専務に被災地で建設しているコンテナ型賃貸住宅の話聞いた。



コンテナを積み重ねる

復興関係の技術者が滞在する場として提供

コンテナがリフトで一つまた一つと積み重ねられていく。まるで、積木で家を造っているかのようだ。進んでいまいせん。どうにかできないかとずっと悩んでいた末に考えたのが、このコンテナ式の賃貸住宅だ。今野専務は話す。同社では、賃

職人が不足している。国との取引経験があるヒールローライフカンパニー、工事が進まないという現場も少なくない。そんな状況において施工性の良いコンテナによる賃住宅を重宝される。実際、女川のコンテナファームテナンスが重なる必要になる住宅設備などを国内で生産する。このユニットをこれまで一方2000戸以上出荷してきた実績を強みとするヒールローライフカンパニーの話を聞いた。コンテナに外壁を貼っているの設備保証もできる。その結果、運搬時に設備が損傷するリスク、商品保証、アフターフォローが可能となった。

市況変化に合わせて移設可能

コンテナ式の住宅。移設が可能という点が大きなメリットがある。今、全国で工場の移転や縮小に伴う人員リストラが行われている。コンテナ式住宅の流通量が増えれば中古市場も確立する。賃住宅を建設するリスクも軽減する。移設することが可能なので、賃住宅を建設



今野不動産(宮城県仙台市)今野幸輝専務(46)

日本の建築基準を満たした中国産のコンテナを輸入

「コンテナ式住宅のメリットは、コンテナ内の住宅設備、内装も仕上げた状態で出荷するため、現地での施工が少なくて済むこと、工期が短縮できること、コストを抑えることができます」(今野専務)

「コンテナと言っても、重鉄骨造なので、建物もしっかりしています。住宅だけでなく、店舗やグループホームなどにも利用できます」(今野専務)

「コンテナと言っても、重鉄骨造なので、建物もしっかりしています。住宅だけでなく、店舗やグループホームなどにも利用できます」(今野専務)

社では、昨年、石巻市内でコンテナ式の賃貸住宅を着工。まもなく竣工予定だという。

「コンテナ式住宅のメリットは、コンテナ内の住宅設備、内装も仕上げた状態で出荷するため、現地での施工が少なくて済むこと、工期が短縮できること、コストを抑えることができます」(今野専務)

「コンテナと言っても、重鉄骨造なので、建物もしっかりしています。住宅だけでなく、店舗やグループホームなどにも利用できます」(今野専務)